SATOSHI KANAZAWA – FLOWING BLUE

金 澤 恵 之 – フローイング ブルー

01. インテルメッツォ

02. TOKYO 4/16 – MOV. I

03. TOKYO 4/16 – MOV. II

04. TOKYO 4/16 – MOV. III

05. 露 ~金子みすゞの詩による連作歌曲より

06. 幻影 -VISIONS-

作曲・ピアノ: 金澤 恵之

ゲストアーティスト: 中川 直子（ソプラノ）

ミックス・マスタリング：Dean Bailin

フロントカバー：國見 紫乃

デザイン：Trois Couleurs

エンジニア：イノックス サウンドデザイン
井上 乃梨己・河野 真人

販売元：Mar Creation (www.marcreation.net)

金澤恵之オフィシャルウェブサイト：https://www.satoshikanazawa.net

～FLOWING BLUE について～

人間の喜怒哀楽、自然描写などを喚起させる性格を持っている楽曲を集めたミニアルバム。収録曲とフロントカバーになっている 國見紫乃さんによって描かれた青を基調とした水彩画は、とても密接に関わり合いを持っています。この水彩画の視覚的イメージとともに音楽に耳を傾けながら、内なる心の深淵を覗いていくことで、自身の価値観やこれまでの人生経験にもとづいた、ある種のストーリーや、情緒、風景が見えてくることでしょう。そこに広がる世界は、唯一無二の聴き手本人だけの空想空間です。そうした心の旅を、この CD の楽曲とともに楽しんでいただけたらと思います。

～楽曲解説～

<＃01. INTERMEZZO>

2003 年に書かれたピアノ曲。穏やかな曲調の中に、人生の喜怒哀楽が垣間見えるような楽曲です。元々は結婚式のお祝いの一曲として作曲されたものですが、その後全体的な改訂を経てコンサート用の小品となりました。

<＃02-04. TOKYO 4/16>

タイトルの示すとおり、東京にある音楽ホールにて 4 月 16 日に収録された曲。完全即興。ピアノに向かい、始めの 1 音が指向する次の 1 音にひたすら耳を傾けることで音を紡いでいき、結果的に三楽章構成の楽曲となりました。即興演奏ではあるものの、一見無意識的に選ばれているはずの音やリズムであっても、実際には、私の経験から獲得された音感や、潜在的に偏愛されている音の嗜好や方法論により音が選択されているという可能性を排除できないことをふまえると、完全な即興作品とは言い難いのかもしれません。作曲の醍醐味は、やはり五線の上に音を配置していくことに尽きるのですが、この曲はどちらかというと、ピアノという楽器と対峙した時に何が生まれるかという興味に突き動かされたパフォーマンスを収録したものであると言えると思います。演奏にあたっては、CD のジャケットにもなっている 1 枚の水彩画が多くのイメージを与えてくれました。それがこの絵を CD のフロントカバーとした理由でもあるのですが、この絵に描かれている多彩な「青」が、海や空、地球、様々な人間の情緒を呼び起こしてくれました。絵とアルバムタイトルと最も密接に関わった 1 曲といえます。

<＃05. 露 ~ 金子みすゞの詩による連作歌曲より>

童謡詩人金子みすゞさんの詩に作曲された、日本語で歌われる連作歌曲より 1 曲を選び収録。金子みすゞさんの詩は、自然と小さい命を慈しむ想いにあふれており、「露 」では、蜂と花の関係にあたたかい眼差しが向けられ、「花からこぼれた朝露は蜜を取られた花の涙。そのことを知った蜂は、きっと蜜を返しにくることだろう」と語りかけます。ゲストアーティストはソプラノ歌手の中川直子。

<＃06.幻影 -VISIONS->

2000 年に作曲されたピアノソロ曲。2009 年 4 月、カナダのケベック州にある Laval University で催されたコンサートにて改訂初演。群青のなかの静寂におとずれる幻影といったイメージが全体を貫いており、激昂してもなお、そこにある張り詰めた静寂が全てを飲み込んでいくような世界が広がっています。嵐の前の静けさともいえる一触即発な現代社会を象徴するような曲であり、かつ人間の心の葛藤を描くような作品。現実と非現実の狭間で揺れ動くような音世界とともに、聴き手はどんな世界を心の中で創造するのか？心の旅をこの楽曲でどう締めくくるかは、全てを聴き手に委ねたいと思います。